

観賞用サツマイモ「九育観2号」

○高畑康浩¹、吉永優¹、熊谷亨^{1,3}、中澤芳則¹、中山博貴¹、田中勝¹、甲斐由美¹、片山健二¹、境哲文¹、
岩城一考²、村上保之²、石原卓朗²、山田将弘²、宮崎潔²

(1.九州沖縄農研、2.サントリーフラワーズ株式会社、3.現・作物研究所)

サツマイモは一般には青果用、澱粉原料用および焼酎やその他の食品加工利用（アントシアニンやカロテンを含む品種など）用途として栽培されるが、その地上部特性に目を転じると、ユニークな葉形・葉色や露地開花性を有する品種・系統があり、それらの特性を活かしつつ初夏から盛夏期にかけて堅強で旺盛な生育を示すサツマイモの長所を併せ持った観賞用品種がいくつか販売されている。なかでも、大きめの黄緑～黄色の葉を持ち草勢や分枝性も良い品種は既に全国販売されているが、ガーデニングが単なるブームではなく消費者生活に密着するにしたがって新たな品種が求められてきた。このような観賞用の用途で利用できる新たなタイプのサツマイモ品種として、心臓形の葉形で地上部全体が濃い紫色の「九育観1号」を演者らは既に育成したが、さらなるラインナップの強化を図るために共同開発を行ってきたところ、新たに「九育観2号」を作出することができたのでその来歴と特徴を報告する。

来歴および育成経過：「九育観2号」は、地上部の紫色の着色程度が高い「99US-OR」を母、保存遺伝資源系統のうち地上部の着色程度が比較的高い6品種・系統の混合花粉を父とする交配組合せ（交配番号0109）から選抜した系統である。

交配採種は平成13年（2001年）に実施し、同年に実生個体選抜試験で地上部の外観および生育性に優れていたことから、「KOP0109-1」の系統番号を付して選抜した。以後平成14～17年系統選抜試験に供し諸特性を検討したところ、地上部の紫色程度が極めて高く、地上部の生育が優れる結果が得られ、品種登録出願することを平成17年度に決定した。

特徴：この新品種は、葉形がもみじ葉状で地上部全体が濃い紫色を呈することが特徴である。観賞用の草花類が春期の販売を中心とする品目が多い中、販売時期が初夏から夏場でありしかもユニークな葉形と葉色を持つ「九育観2号」は商材として意義深く、既存の黄葉の観賞用品種や「九育観1号」とともに夏場に手入れが要らずにキレイに楽しめる。また、草姿もコンパクトで、花壇や庭

先への栽培はもちろん、大型のプランター等への寄せ植え素材としても活用できる。

葉色の色素成分はアントシアニンであり、「九育観2号」葉身のアントシアニン含量は「九育観1号」より低い、葉身の色彩値はほぼ同等であった。「九育観2号」葉身のアントシアニン色素組成は、シアニジン型である YGM1a、1b およびペオニジン型である YGM 4、5a を比較的多く含んでおり、このことは Yoshinaga et al.(2002)の報告と傾向が一致した。

Yoshinaga et al. (2002) Proceeding of 12th Symposium of International Society of Tropical Root Crops. p314-318

表 地上部特性および葉身の色素に関する試験成績

特性名	品種・系統名		
	九育観2号	コガネセンガン	九育観1号
茎色(着色の程度)	多	少	多
節色(")	多	中	多
茎の太さ	やや太	中	中
茎長	やや長	中	中
頂葉色	淡緑(紫褐)	淡緑(紫褐)	淡褐(紫)
葉色	濃紫	緑	濃紫
葉形	複欠刻	単欠刻浅裂	心臓形
露地開花性	無	無	無
特性名	九育観2号	九育観1号	99US-OR
色彩値	葉身	葉身	葉身
L*値	20.3	19.5	23.0
a*値	3.0	4.1	-0.4
b*値	-0.7	-0.2	1.6
色価	5.30	6.98	3.28
色素組成比 (%)			
YGM1 a	13.3	24.5	8.1
YGM1 b	13.6	28.3	22.5
YGM2	2.0	1.7	trace
YGM3	2.2	2.3	2.2
YGM4	20.4	11.5	10.8
YGM5 a	23.2	14.0	40.1
YGM5 b	3.5	0.9	0.8
YGM6	2.7	1.0	1.7

注) 調査は挿苗後60日後後に実施。葉身の色彩値・アントシアニンの調査については主茎展開葉より7-10節目付近の葉身を1株あたり3枚供試した。

色彩値：色彩色差計を用いて測定。3株調査の平均値。

L*値：明るさを示す。数値が高いほど明。

a*値：赤-緑の軸の色彩を示す。数値が高いほど赤が強。

b*値：黄-青の軸の色彩を示す。数値が高いほど黄が強。

色価：葉身1g(生重)を20mLの1.5%酢酸で一晩抽出し、緩衝液で4倍希釈、pH3に調整後、分光光度計で530nmを測定し、希釈倍率を乗じて算出。3株調査の平均値。(概ねアントシアニン色素の濃さを表す)

色素組成：上記抽出液をHPLCにより分析。全ピーク面積に占める割合を%で示す。

YGM1 a、1 b、2、3はシアニジン型アントシアニン

YGM4、5 a、5 b、6はペオニジン型アントシアニン